

文学研究科教育学専攻・博士前期課程 専門分野・教員一覧

■教授

船津 守久

博士（医学） ※教育学専攻長 兼 臨床心理学コース長

主な担当科目

●特別支援教育特論 ●臨床心理学特論Ⅰ ●臨床心理学特別研究Ⅰ～Ⅳ

研究内容

発達障害のある子どもの療育を臨床心理士、公認心理師として行っている。家族への支援を中心として、子どもの社会的な自立を目指すために必要な支援内容と支援方法について実践と理論を通して検証を行い、支援プログラムの作成と実践に取り組んでいる。

深澤 広明

博士（教育学） ※教育学・心理学コース長

主な担当科目

●教育課程論特論 ●教育方法学特論 ●教育学特別研究Ⅰ～Ⅳ

研究内容

主体的に「学びに向かう」態度を生成する「授業システム」の開発に取り組んでいる。「授業づくりと学級づくりの往還」や「教材研究をふまえた小集団活動の組織化」に焦点を当てた「学習集団づくりを志向する授業研究」と連動して研究している。

池田 智子

博士（心理学）

主な担当科目

●教授・学習心理学特論 ●心理学特別研究Ⅰ～Ⅳ

研究内容

取り組んでいる研究テーマは、大学生の学習観、大学生の自己調整学習におけるメタ認知の役割、心理学教育における批判的思考態度の育成、大学生の進路選択・決定過程におけるメタ認知の役割である。

金坂 弥起

修士（教育心理学）

主な担当科目

●臨床心理面接特論Ⅰ ●臨床心理学特論Ⅱ ●臨床心理学特別研究Ⅰ～Ⅳ

研究内容

精神科心理臨床における実践的研究、医療領域全般における多職種連携協働、およびそれを体現するための多職種連携教育に向けた方法論の構築などである。

澤田 英三

修士（文学）

主な担当科目

●発達心理学特論 ●生徒指導・教育相談、キャリア教育特論

研究内容

人の発達を支える現場に赴き、観察法やインタビュー法などの手法を用いて、現場で発達のからくりや支援の特徴を明らかにする。

棚橋 健治

博士（教育学）

主な担当科目

●教科教育学特論A ●教育学特別研究Ⅰ～Ⅳ

研究内容

社会認識教育学分野を専門として、主として教科論、カリキュラム論、授業論、評価論、教師論。様々な社会科学力論に対応した学習評価の実態とその特質・課題から、一教科としての社会科の理念実現過程を研究。また、社会科教師としての教科指導力向上を、教師の社会科授業観を視点として研究。

土井 徹

博士（教育学）

主な担当科目

●教科教育学特論B ●教育学特別研究Ⅰ～Ⅳ

研究内容

円滑な学びの接続をめざす小学校・中学校の理科指導方略。近年の研究テーマは、SDGs達成に向けた小・中・高等学校理科のプログラム開発、生物多様性の保全に貢献できる保育士・教員養成プログラムの開発である。

文学研究科教育学専攻・博士前期課程 専門分野・教員一覧

徳永 隆治

修士（教育学）

主な担当科目 ●教科教育学特論D ●教育学特別研究Ⅰ～Ⅳ

研究内容 体育科教育学専門。小学校体育科授業づくり論を展開し、特に教材論・方法論を中心に授業実践の在り方を追究している。現在は、授業参観・収録をもとにした授業分析により教師活動と児童の学習活動の関係性を追っている。

西 まゆみ

修士（文学）

主な担当科目 ●心理実践実習Ⅴ ●臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）

研究内容 芸術療法の一つ、コラージュ療法に関する基礎的研究。二つ折り法の試み。女子大学生にコラージュ療法を行う際、台紙を二つ折にする教示を与えた場合の、通常の方法、平面法との相違に関する研究。

西川 ひろ子

修士（教育学）

主な担当科目 ●幼児教育学特論 ●教育学特別研究Ⅰ～Ⅳ

研究内容 保育・幼児教育学を専門とし、研究テーマは保育者養成、発達障害傾向がある幼児への支援、モンテッソーリ教育法の受容史、接続カリキュラムの作成と効果、幼児のキャラクター志向である。

橋本 正継

修士（教育学）

主な担当科目 ●教育学特別研究Ⅰ～Ⅳ ●教科教育学特論B

研究内容 算数・数学学習における児童・生徒の数学的理解の過程や算数・数学科授業の構成について実践的研究を行っている。近年は算数・数学学習におけるICT活用方法について注力している。

山内 廣隆

博士（文学）

主な担当科目 ●人間学特論 ●教育学特別研究Ⅰ～Ⅳ

研究内容 これまでにヘーゲル哲学をドイツ観念論、とりわけフィヒテ哲学との関係で研究してきた。また、ドイツ環境思想の日本導入に尽力してきた。現在は、日本哲学を政治哲学的観点から研究している。

吉田 裕久

博士（教育学）

主な担当科目 ●教科教育学特論A ●教育学特別研究Ⅰ～Ⅳ

研究内容 国語科授業論（話すこと・聞くこと・書くこと・読むことの指導について、目標・内容・方法・評価）を考究するとともに、国語教育史（明治期以降の国語教育理論・実践史、戦後初期国語教科書、地方国語教科書）を中心に展開している。

■准教授

五十嵐 亮[※]

博士（心理学）

主な担当科目 ●学校心理学特論

研究内容 教育心理学、教育工学を専門とし、特に授業分析方法の開発や教師の熟達化過程及び教職課程学生の認識変容過程に関する研究、高校生・大学生を対象とした自己調整学習方略の獲得支援に関する研究を行っている。

文学研究科教育学専攻・博士前期課程 専門分野・教員一覧

小川 麻里[※] 博士（理学）

主な担当科目 ●教科教育学特論B ●教育学特別研究Ⅰ・Ⅱ

研究内容 生物の形の進化や環境適応について調べ、その知見をもとに、幼児期の自然体験、小学校生活科での自然や生物に関わる活動、小学校理科（生命・地球分野）での観察・実験など、自然科学の基礎的体験のための学習環境づくりについて研究している。

生塩 詞子 修士（心理学）

主な担当科目 ●臨床心理査定演習Ⅱ ●臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ ●心理実践実習Ⅲ

研究内容 人格検査、特にロールシャッハ・テストやバウム・テストといった投影法検査にみられる情緒指標に関する研究。心理専門職を志望する初学者の自己課題発見やその解決能力の育成についての研究など。

加登本 仁[※] 博士（教育学）

主な担当科目 ●教科教育学特論D ●教育学特別研究Ⅰ・Ⅱ

研究内容 体育科教育学及び教師教育学。質的研究法を中心として、体育授業における学習集団の形成に関する研究や小学校教師の体育授業力量形成に関する研究に取り組んでいる。

熊井 将太[※] 博士（教育学）

主な担当科目 ●教育課程論特論 ●教育方法学特論

研究内容 教育方法学を専門とし、特に、教育方法の思想と歴史に関する研究、「学級で教えるということ」の技術と思想に関する研究、ドイツの教授学に関する研究、「エビデンスに基づく教育」に関する研究などに取り組んでいる。

齋藤 大輔 博士（医学）

主な担当科目 ●人格心理学特論 ●心理学特別研究Ⅰ～Ⅳ

研究内容 取り組んでいる研究テーマは、生活環境が日常の行動に及ぼす影響や、子どもの脳の発達に与える影響などについてである。それらに対して、心電図や脳波、脳血流、内分泌などの生理指標を用いて調査をしている。

永田 彰子[※] 博士（教育学）

主な担当科目 ●学校心理学特論 ●心理学特別研究Ⅰ・Ⅱ

研究内容 青年期および成人期における他者とのかかわりの中での自己の発達について関心を持っている。近年は教育、保育の文脈に注目し、職業的専門性としての次世代育成意識の発達、変容に関する実証的研究を行っている。

西村 聡生 博士（心理学）

主な担当科目 ●心理学研究法特論

研究内容 認知心理学を専門とし、特に行為と認知機能の相互作用、身体と空間の表象、認知機能の個人間相互作用について研究している。

藤原 裕弥 博士（学術）

主な担当科目 ●健康心理学特論 ●心理統計法特論

研究内容 不安や抑うつなどの感情に対する情報処理論的アプローチ、表情認知に及ぼす感情の影響、ストレスの生理・心理的影響に関する研究、など

文学研究科教育学専攻・博士前期課程 専門分野・教員一覧

山本 文枝 修士（心理学）	
主な担当科目	●臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ ●心理実践実習ⅠA
研究内容	大学生がグループディスカッションなどの場に参加するためのコミュニケーション能力育成に関する臨床心理学的アプローチの研究に取り組んでいる。

■講師

田渕 恵 ※ 博士（人間科学）	
主な担当科目	●社会心理学特論
研究内容	社会心理学、生涯発達心理学を専門とし、世代間コミュニケーション、高齢期の次世代に対する利他行動、異世代間相互作用と心理発達について研究している。

※氏名横の「※」は研究指導の補助及び授業担当適格者を示す。